

# 八代農業塾

## 第6期

～1年間の振り返り～



【主催】

八代市担い手育成総合支援協議会  
(八代市 農林水産政策課内)

八代農業塾とは、八代農業高校と八代市が連携し、「農業に興味がある方」「農業を始めたいと思ってる方」のために、農業体験や農業に関する知識を提供する場です。

第6期は「生物多様性のある圃場で持続可能な農業を考える」をテーマに、田植えや収穫などの農業体験や、資金調達についての講座など、様々な活動に取り組んでいきました。

## 【 開 講 式 】

6月7日（土曜日）、八代市担い手育成総合支援協議会の事業として、「八代農業塾（第6期）」の開講式が行われました。開講式では、塾長である八代市長及び副長である八代農業高校校長の挨拶に続き、受講生19名を代表して八代農業高校1年の武永楓さんが農業への情熱と意気込みを込めた塾生宣誓を行いました。式では、農業委員会の本田会長をはじめとするご来賓の皆さまにご出席をいただきました。



（左から塾長（八代市長）、来賓 農業委員会 本田会長、農業高校1年 武永さん）

## 【オリエンテーション】

開講式の後には、受講生同士の交流を深めることを目的にオリエンテーションを実施しました。受講生一人ひとりが自己紹介を行い、農業塾に参加したきっかけや水稻栽培への関心を共有しました。その後、八代市 農林水産政策課の田浦主事より「八代市の農業」について講話があり、八代地域の農業の特色や現状を学びました。



八代市 田浦主事

## 【第1回講座「講座：生物多様性のある圃場での水稻栽培」】

後半では、八代市で自然栽培による米づくりを行っている塚田農園の塚田 美恵 氏を講師にお迎えし、「生物多様性のある圃場での水稻栽培」をテーマに講話をいただきました。塚田氏からは、自然栽培を始めたきっかけや慣行栽培・有機栽培との違い、苗づくりや草刈りによる防除の工夫などについてお話を伺いました。中でも、「子どもに安心して食べさせたい」という思いから始まった米づくりの姿勢に、受講生たちは大きな関心を寄せていました。



塚田農園 塚田 美恵 氏

## 【第2回講座「実技：田植え」】

6月23日（土曜日）、八代農業塾（第6期）第2回講座として「実技：田植え」が行われました。前回講師を務めていただいた塚田農園・塚田美恵氏の圃場をお借りし、水稻の手植えおよび田植え機乗車体験を行いました。

手植えの実技では、塚田氏より「ならす」「植える」「埋める」の3つの動作をリズムよく行うことの重要性、また、田植え機の通過後など、圃場が平面になっていないと雑草の発生要因となるため、丁寧に均すことが必要である旨の指導がありました。受講者は泥に足を取られながらも、真剣な表情で一株一株丁寧に植え付けていきました。

また、当日は熊本高専八代キャンパスの学生も参加し、塚田氏が用いる「ポット苗」と、高専で研究開発を行っている「バラ苗」の特性や使い分けについて説明がなされ、実践に加えて技術的な学びも深められる内容となりました。



田植え機の操作体験については、塚田氏のご指導のもと行いました。多くの受講者にとって初めての田植え機操作となりましたが、安全面に配慮しつつ丁寧な指導のもと、参加者は貴重な体験に大いに関心を寄せておりました。終了後には「また操作してみたい」との声も聞かれ、有意義な学びの機会となりました。



## 【第3回講座「実技：栽培管理」】

7月12日（土曜日）、八代農業塾（第6期）第3回講座「実技：栽培管理」が行われました。今回、八代農業塾では農薬を使わない自然栽培を学んでおり、そのためにも害虫の発生を抑える草刈りは栽培管理の上で必要になってきます。第1回講座・第2回講座と同じく、塚田農園の塚田美恵氏にご指導いただきながら、草刈り機や“がんづめ”と呼ばれる農具を使い、害虫防除を行いました。

最初に、草刈り機の使い方と安全上の注意点について学びました。エンジンの始動方法や、作業中は騒音で周囲の音が聞こえにくいため、注意喚起には小石を軽く当てて気づいてもらうといった安全対策も教わりました。加えて、圃場の周囲の草を刈ることで、生物の過剰な繁殖を抑え、生態系のバランスを保つ効果があることを知りました。草刈り機を扱うのが初めてという受講生が多かったものの、苦戦しながらも協力して草を刈り取ることができました。



続いて、“がんづめ”という農具を使った実技を行いました。これは、土を起こして雑草を取り除くとともに、土に空気を入れて稲の健全な成長を促す役割があります。実際に圃場の中を押しながら進むと想像以上に重く、作業は大変でしたが、受講生たちは汗をかきながらも真剣に取り組んでいました。



## 【第5回講座「実技：収穫」】

10月11日（土曜日）、八代農業塾（第6期）第5回講座「実技：収穫」を開催しました。

第4回講座は大雨災害の影響により12月に延期となり、第5回講座も、稲の生育状況を鑑み、1週間延期しての開催となりました。

今回も第3回講座に引き続き、塚田農園の塚田 美恵 氏を講師にお迎えし、これまで受講生が育ててきた稲の収穫作業を体験しました。

まず、コンバインで刈り取ることができない田んぼの隅の部分、鎌を使って手刈りしました。刈り取った稲は藁で束ね、田んぼの中央に集めて「かけぼし（天日干し）」を行いました。

昔ながらの自然乾燥させる伝統的な方法を実際に体験することで、手作業の大変さや稲作の工程の意味を学ぶことができました。受講生全員で記念撮影を行い、収穫の喜びを分かち合いました。



その後は、受講生全員が順番にコンバインに乗り込み、実際に操作を体験することで、大きな機械を動かす緊張感と達成感を味わいながら、機械化の重要性を体感しました。

受講生からは「自分たちで育てた稲を収穫できて感動した」「農業の大変さと楽しさを実感した」といった感想が寄せられました。



## 【第6回講座「実技：販売体験」】

10月25日(土)、八代農業塾(第6期)第6回講座「実技：販売体験」を、熊本高専八代キャンパスで開催しました。

当日は高専祭が開催されている中、会場の一室をお借りして、受講生たちがこれまでに栽培・収穫したお米を販売しました。



販売価格は3合500円。受講生たちは最初、販売班と袋詰め班に分かれ、それぞれの役割を担当しました。袋詰め班では、先日収穫した大切なお米を丁寧に袋に詰め、販売班は来場者に笑顔で声をかけながら販売を行いました。

途中からは、高専祭のステージや出店エリアを回り、「自然栽培で作ったお米、売ってまーす!」と元気に呼びかけながら販売活動を行いました。多くの方が足を止め、八代農業塾や自然栽培の取組に興味を持ってくださり、次々とお米を購入していただきました。



結果、当日販売予定だった分はすべて完売し、翌日分として準備していたお米もいくつか販売できました。

今回の販売体験を通じて、受講生たちは「生産から販売までの流れ」を学ぶとともに、地域の方々との交流を深めることができました。今後も実践的な体験を通じて、農業への理解と関心を広げてまいります。



## 【第7回講座「実技：農業の可能性」】

11月29日（土）、八代農業高校で第7回講座「実技：農業の可能性」を開催しました。この講座では、Fam Lab8の代表理事である林孝憲氏と高木明日香氏を講師に迎え、農業を通じた地域振興や新しい取り組みについての講義と実技体験が行われました。

講義では、農業の循環化、省力化、魅力化について紹介されました。農業における「循環化」や「省力化」については、食品工場の残渣や給食の残渣を肥料として活用する方法や、デジタル技術を使って省力化を図る取り組みが紹介され、技術革新の重要性が強調されました。「魅力化」については、Fam Lab8が推進する「アグリスポーツ」の取り組みを紹介されました。農業者が日々磨き上げた「匠の技」をスポーツ競技として楽しんでもらう新しいコンセプトが提案され、受講生たちは農業の魅力を再発見することができました。



(左から林 孝憲 氏、高木 明日香 氏)

講義後、受講生たちは実際に「アグリスポーツ」を体験しました。競技内容は、お米の等級や品種当てのチャレンジ、お箸を使ったお米移しリレー、そして食味で品種を当てるチャレンジなど、チームごとに得点を競い合いました。特に「お米の等級当てチャレンジ」や「お米移しリレー」は難易度が高く、受講生たちは真剣に取り組みました。

競技終了後、1位と2位のチームには賞品が贈られ、受講生たちは大いに盛り上がりました。「アグリスポーツのイベントがあれば、ぜひ参加したい」という声もあり、農業とは、農業生産だけではなく、多面的な魅力があることを学ぶことができました。



優勝チームには FamLab8 より賞品として、八代のい草で作られた「い草ディフューザー」を贈られました。

## 【第4回講座「講座：資金調達・新規就農」(延期分)】

12月6日(土曜日)、八代農業高校で第4回講座「講座：資金調達・新規就農」(延期分)を実施しました。今回の講座は前半と後半の2部構成とし、それぞれの視点から就農に必要な知識を学びました。

前半では、日本政策金融公庫 融資第二課 上席課長代理の畑尾 隼人 氏を講師に迎え、農業を始める前の事業計画や資金の調達方法について学びました。講義では、「もし皆さんが今から農業を始めるとしたら」という想定のもと、営農計画の策定についての話があり、営農計画は自身の理想や夢だけではなく、県が公表する農業経営指標など客観的データを参考に、実現性の高い内容で策定することが重要であるとの説明がありました。

また、新規就農者を対象に実施したアンケート調査によると、農業を「楽しそうだから」という理由のみで始めた結果、経営が続かないケースが多いという事例が紹介され、受講生にとって農業経営の現実を深く理解する貴重な機会となりました。さらに、国や県、市町村の各種補助制度や金融機関の融資制度についての説明もあり、安定した就農につなげるために何をすべきかという具体的なアドバイスも示されました。



日本政策金融公庫 畑尾 隼人 氏

後半では、八代農業塾第3期修了生で、アグロード二見代表の松永隆信 氏を講師に迎え、50代で農業を志した理由や、生まれ育った二見地区の課題にどのように向き合ってきたのか等について講話がありました。

「農業者の平均年齢は高く、皆さんはまだ若いです。今からでも農業を始めれば地域を守る力になります。」という力強いメッセージがあり、松永氏が二見地区で実践している取り組みも紹介され、地域農業の可能性を具体的に学べる内

容となりました。また、就農後の成功や苦勞を率直に語っていただいたことで、受講生が自身の将来像をより現実的に考えるきっかけにもなりました。



アグロード二見代表 松永隆信 氏

## 【第8回講座「実技：調理・加工」】

12月20日（土）閉講式と同日開催のため、記事は省略。  
後日、市ホームページに記事を掲載します。



1年間お疲れ様でした！